

く大部分の地域で高い正相関が分布することが示された。気温や降水量の経年変化と蒸発散量の経年変化との関係を調べたところ、暖候季に一般的に大きくなるものの、6月に相関が強くなることは無かった。以上

の結果は、植生における蒸散活動の経年変化が大陸規模の蒸発散の経年変化に影響を及ぼしていることを示すものである。

編集後記：富士山頂の通年観測はこの秋で終わる予定です。富士山レーダーが撤去された時に、同時に無人化されたと思っている人は多いのですが、地上気象観測は続いています。私は現在、富士山測候所で年4回（1回3週間）ほど山頂勤務をしています。職場が無くなると思うと少し寂しい気がします。

私は平均よりかなりインドア派ですが、それでも、山頂で見た落雷している積乱雲の全景や層雲が山脈から流れ出る様子などには動きました。そういう気象現象を見上げるだけではなく横・上から観察し、気象レーダーやウィンドプロファイラと見比べる、といったことも日常的でした。得がたい体験をしたと思います。

ランニングコスト的な問題は大きいと思いますが、高層での連続観測が可能な基地としてはまだまだ有用であり、また撤去するにも莫大な費用がかかります。

どこか気象庁でなくとも、有効に利用してくれる省庁や自治体が名乗りを上げてくれることを、個人的にも期待しているところです。

また、無人化・冬季閉鎖されたあとも観測データを送り続ける自動気象観測装置は、頻繁な落雷や数百kgの着氷・結氷、そして50mを超える強風などに耐えなければならず、なかでも気温などの観測感部は各所に配置されて5重系のシステムになっています。逆に言えばそれ位にしなれば維持できない環境ということ、今更ながらその過酷さを思います。

次の山頂勤務（8/25～9/15）で下山する際に、通年観測最後の班に引き継いで降りる予定です。山頂では無人化の準備が進んでいると思いますが自動気象観測装置が変わらずデータを送り続けられるように、私なりに心を配ってこようと思います。（勝山健一）

「天気」編集委員会

編集委員長 新野 宏(理事)
 編集委員 里村雄彦(理事)・古川武彦(理事)
 藤部文昭(理事)
 青柳曉典・大淵 濟・勝山健一
 金田昌樹・上口賢治・川島正行
 木村陽一・杵渕健一・小出 寛
 小林健二・桜井敏之・佐藤晋介
 小司禎教・関山 剛・高橋 宙
 田口晶彦・寺坂義幸・中西幹郎
 中村 尚・新村典子・平井雅之
 別所康太郎・水野 量・望月隆史
 山本 哲

地区編集委員 北海道 清水為一・渡部雅浩
 東北 藤田由紀夫・岡本 創
 関東 田代誠司・河野耕平
 中部 永尾一平・岡田 京
 関西 山本二郎・山中大学
 九州 磯部英彦・中島健介
 沖縄 宮良武男

編集書記 遠藤和子

複写される方へ

本誌に掲載された著作物を複写したい個人または団体（図書館も含む）は、著作権者から複写権等の行使の委託を受けている下記の団体から許諾を受けて下さい。

〒107-0052 東京都港区赤坂9-6-41 乃木坂ビル
 学術著作権協会

Tel : 03-3475-5618, Fax : 03-3475-5619
 E-mail : naka-atsu@muj.biglobe.ne.jp

Notice about photocopying

In order to photocopy any article from this publication, you or your organization must obtain permission from the following organization which has been delegated for copyright for clearance by the copyright owner of this publication.

Japan Academic Association for Copyright Clearance (JAACC)

9-6-41 Akasaka, Minato-ku, Tokyo 107-0052, Japan
 Tel : 81-3-3475-5618, Fax : 81-3-3475-5619
 E-mail : naka-atsu@muj.biglobe.ne.jp